

働く男のライフスタイル情報紙

# Biz Life Style

[ ビズスタ東京 ]

2024 11

特別版

『BizLifeStyle』は東京、神奈川、関西、仙台、福岡、広島にて46万部発行  
下記URLまでアクセスを。

[www.biz-s.jp](http://www.biz-s.jp)

本紙はスポンサー様の協賛により制作しております。

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは

TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005

企画・制作/株式会社ティリススポーツ案内広告社

〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F

©2024 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD



Jackeryのポータブル電源で広がるアウトドアの愉しみ。

Bring Green Energy To All.

グリーンエネルギーをあらゆる人に あらゆる場所で提供する。

ポータブル電源の快進撃が止まらない。頻発する自然災害に加え、アウトドア系ホビーの隆盛も追い風となって販売好調だが、その原動力は製品自体の目をみはる進化にある。連続使用が可能な時間が延び、充電用のソーラーパネル製品も性能が向上した昨今は、屋外でもインドアの趣味が楽しめる勢いだ。

2010年代の後半から定着し始めたポータブル電源だが、大きな役割を果たしたのが、アメリカのブランド「Jackery(ジャッキー)」だ。2012年にカリフォルニアで創業した同社は、エコロジカルな電力ソリューションへの需要の高まりを受けてポータブルを製造販売し、その技術力で瞬く間にトップブランドの一角へと駆け上がった。

日本には2019年に上陸。約半年後に襲来した令和元年東日本台風などで危機意識が高まり、躍りヒット商品に。一度見たら忘れないうあのオレンジのブランドカラーは、高品質ポータブル電源の目印ともなった。

現在は販売台数が400万台を突破し、名実ともにリーディングブランドへと成長したジャッキー。今回は、同社の創業12周年記念企画の一環として、同じく米国の誇り、ジープとのコラボでキャンプに出发。ポータブル電源が実際にどう使えるのか検証してみた。



Jackery  
Solar Generator

働く男のライフスタイル情報紙

# Biz Life Style

[ ビズスタ東京 ]

2024 11

特別版

『BizLifeStyle』は東京、神奈川、関西、仙台、福岡、広島にて46万部発行  
下記URLまでアクセスを。

[www.biz-s.jp](http://www.biz-s.jp)

本紙はスポンサー様の協賛により制作しております。

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは  
TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005

企画・制作/株式会社ティリススポーツ案内広告社  
〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F  
© 2024 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD



## Jeep初の100%バッテリー式EVが、いよいよ。

Go Anywhere. Do Anything.

どこへでも行ける、何でもできる。



# Jeep

1941年の実戦投入以来、アメリカの軍用車両として戦場を駆けた小型四輪駆動車は、高い耐久性と悪路走破性で多大な戦果を挙げた。その衝撃は戦後も衰えず、軍用だけでなく民生用としても4WD車の市場を開拓。車両の背面にスベアタイヤを背負うスタイルは憧れの的となったが、メーカーやブランドに関わらず、そんなスタイルの車を人々はこう呼んだ。  
『ジープ』は、道なき道を往くタフでワイルドなオフロードの代名詞。その一方で、実は1980年代半ばにはコンパクトSUV時代の到来を予見していた先進ブランドでもある。四駆SUVを専門として、オンロードでも優位性を発揮するクロスオーバー車、タウンユースに適したスモールSUV、PHEVなどの新機軸を次々と発表。デザインも洗練を極め、最近では日本の市街地でも存在感を増している。  
現在の注目モデルは、今秋に日本上陸を果たした新型『アベンジャー』だ。ブランド初のピュアEVだが、泥、雪、砂地といった過酷な路面状況を苦にしない多様な走行モードを搭載するなど、ジープらしさはもちろん健在だ。そこで今回は、ポータブル電源を携えてのアウトドアシーンに活用。このコンパクトなクロスオーバーSUVの試乗がてら、キャンプに出かけてみた。

My Favorite Life Style



スマホなら何と45回のフル充電が可能

Jackery ポータブル電源 1000Newは、その名の通り1000Wh(正確には1070Wh)の容量が確保されている。この大容量の恩恵は大きく、スマホなら何と約45回もの充電が可能に。消費電力60Wのテレビなら半日にわたり点けっ放しにでき、80WのノートPCなら7回ほどフル充電できる計算だ。キャンプだけでなく車中泊や停車時にも対応可能なので、防災グッズとしても威力を発揮する。

スマホの直接充電も可能な高効率パネル

Jackery ポータブル電源1000 Newと対になるソーラーパネル「Jackery ポータブル電源 1000 New」は、最大100Wで電気を作り出すことが可能。両面発電できるため、約25%という業界トップクラスの優れた変換効率を持ち、特殊ラミネートでさらなる高耐久・長寿命化を実現した。セットアップはパネルを広げて角度を調整するだけの簡単さで、閉じると持ち運び容易で収納時も場所を取らない。Jackery ポータブル電源 1000 Newとのセットでは約15時間でフル充電でき、さらなる時短化なら複数のパネルを接続することも可能。また、USBポートを装備しているので、発電した電力で直接スマホやタブレットを充電することもできる。



- Jackery Solar Generator 1000 New  
Jackery ポータブル電源 1000 New+Jackery SolarSaga 100×1枚: 174,600円(税込)  
Jackery ポータブル電源 1000 New+Jackery SolarSaga 100×2枚: 203,400円(税込)
- Jackery ポータブル電源 1000 New ※単品販売の場合: 139,800円(税込)  
●電池タイプ/リン酸鉄リチウムイオン電池 ●容量/1070Wh ●定格出力/3ポート合計1500W(瞬間最大3000W) ●サイズ・重量/約327×224×247mm(約10.8kg) ●搭載ポート/AC出力×3、USB-A×1、USB-C×2、シガーソケット×1
- Jackery SolarSaga 100 ※JS-100F  
●最大出力/100W ●変換効率/25% ●重量/3.6kg ●収納サイズ/610×552×35mm ●展開サイズ/1220×552×20mm



株式会社Jackery Japan  
東京都中央区晴海1丁目8番10号 トリトンスクエアX棟3階  
https://www.jackery.jp/

Biz Life Style Pick up >>> ジープ初の100%電気自動車

この秋、ブランド初の電気自動車として大きな話題を集めた新型クロスオーバーSUV『アベンジャー』は、2022年発表の『コマンドー』以来、約2年ぶりのニューモデルとなった。6つの走行モードが選べる「セレクトレイン」と、急な下り坂でも一定速度で走行できるようアシストする「ヒルディセントコントロール」の標準装備は、ジープの前輪駆動車としては初の事例。ヘッドランプよりも前に配置されたフロントグリルやアンダーボディのスキッドプレートなど悪路も安心のジープらしい車体保護設計に加え、最新の運転支援システムを多数搭載している。



AVENGER



- 写真: Altitude 5,800,000円
- ボディカラー:スノー
  - 右ハンドル
  - (全長)4,105mm×(全幅)1,775mm×(全高)1,595mm
  - 前輪駆動
  - 乗車定員:5名
  - 最高出力:115Kw(156ps)
  - 最大トルク:270N・m(27.5kgm)

- ボディカラー ※1メタリック塗装代が別途かかります。
- スノー C/C
  - ポルケーノ C/C
  - グラナイト メタリック※1
  - サン メタリック※1



ビズスタ特典

二次元バーコードからアンケートに回答いただくと、抽選で1名様に「Jackery Explorer 100 Plus」をプレゼントいたします。

https://x.gd/qj0sC

応募期間:2024年11月16日~2024年11月30日 ※23時59分まで



JeepにJackeryを積んで、大人ライフをもっと豊かに。

「コロナ禍でいかにわかに高まったアウトドア需要がそのまま定着する形となった昨今のキャンパー人気。自由気ままなソロやデュオキャンプから、ミッドシティーな屋外体験を楽しめるグランピングまで、裾野が大きく拡大した。それを後押ししているのが、関連アイテムの充実だ。扱いやすいテントや調理器具など、続々と登場する最新アウトドア用品の数々は、かつての「大変そこ」という印象を「楽しそう」と変換し、入門者たちの心理的な障壁を見事に払拭。中でも MVP級の動きを見せているのが、ポータブル電源だ。というわけで、今回はその実力を簡単に検証したい。

首都圏近郊のキャンプ場への行き来は、「ジープアベンジャー」を選んでみた。同社の初のEVモデルで、しかも現行ラインナップで最もコンパクトな車種となるが、あの走破性は健在で先進機能も満載だ。山道や未舗装の道路程度なら乗勝の走行性能&アシスト機能に、キャンプ用品がトッパリ入る300ℓの大容量トランク。車体そのものが洗練されたアウトドアエアであり、かつ近場な充電なしで往復できる480kmの航続距離を誇るEVモデルとなれば、「エロジカルな大人ライフ」というキャンプの楽しみみからしても実に有意義な選択と言える。

コンパクト化と高出力大容量化が同時に進むジャクリのポータブル電源

そんなわけで、6つの走行モードを選べる噂の「セレクトレイン」システムに軽く感動しつつ、目的地に到着。荷ほぐしモードの設置を終え、まずは「セレクトレイン」の写真を自撮りし、まずは「セレクトレイン」のポータブル電源を設置して、その使い勝手をチェックしよう。

今回連れてきたモデルは、2024年度の新定番モデル「Jackery Solar Generator 1000 New」だ。人気モデル「Jackery Solar Generator 1000 New」の後継モデルと25%の発電効率を実現したソーラーパネルのセット商品で、さまざまなトラック



を内包している。現地ですぐ気づくのは、積み下ろしが思ったより楽なこと。本体のサイズは約20センチコンパクト化されているので、10kgの重量もクラス最軽量。しかも、トラックから降ろす時に「よいしょ」という声は出るが、持ち運びは苦にならない。という感覚だろうか。

これでは、もう少しスペックの確認から。Jackery ポータブル電源 1000 Newの定格出力は1500Wで、従来モデルから実に50%ものパワーアップを果たしている。ここまでは、1000Wを超えるドライヤーや電子レンジといった高出力家電など、一般的な家電製品なら大半に対応できるレベル。このパワーがこのコンパクトな本体に収められているのだから、その進化ぶりに改めて驚く。

進化と言っても、もうひとつ特記しておきたいのが「ソラ」性能だ。ポータブル電源では定番化してきているリン酸鉄リチウムイオン電池が採用されており、4000回の充放電サイクル後も70%のバッテリー残量を維持するため、毎日充電しても10年間は安定して使用し続けることが可能。節約モードを使えば、さらに1.5倍の長寿命化も可能というから凄い。また、安全性の向上にも注力。62種に及ぶ保護機能を搭載した独自の高速充電技術は、最短60分の急速充電を実現。使用時の発熱も抑えられ、利便性と安心感が大きく高まっている。

相方となる折り畳み式のポータブルソーラーパネルも充実している。「Jackery SolarSaga 100」は、1.68mの防水防塵に対応。ラポテストでは深さ1.2mのきれいな水に24時間にわたり

実際に使ってみよう。ポータブル電源本体はAC出力とUSB出力を3ポートずつ備えているので、まずは道中で使い切ったスマホやタブレット、写真や動画編集用のノートPC、電気ポットなどを使用電力を考えずに接続。電池残量は専用アプリで監視できるのだが、最初は「大丈夫か」と本体をチラチラ見してしまう。本領を発揮するのは日没後だ。昼間のうちに太陽光で充電しておけば、アウトドアの定番であるホットプレートや電気フライヤー、液晶テレビにポータブルスピーカー、LEDランタンに電気毛布など、夜が深まるにつれて順番に発生するキャンプギアの電気が余剰で切り盛りしてくれる。

ACプラグがUSB-Cに接続できる。いまま家庭用電源であれば何でも接続できるようなJackeryのポータブル電源 1000 New。今回は趣味的な使用となったが、大容量ポータブル電源の開発技術は災害対応力の向上やグリーンエネルギー時代の加速にも貢献する。今は発展途上ながら、これまでの進化スピードから、さらにエロジカルで強力なポータブル電源の実現はそう遠くないかもしれない。そんな期待感が高まるキャンプ体験となった。

電池残量に神経質になることなく、キャンプギアをどんどん接続



※1:1000Wh帯双方向インター換搭載のリン酸鉄搭載モデルにおいて最軽量。2024年6月時点、Jackery調べ。※2:従来モデル(1000,1000 Pro)との比較。※3:アプリで「緊急充電モード」を利用の場合。※ポータブル電源はジープ・アベンジャーの充電はできません。